令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立千寿桜小学校
校長　渡　辺　　円

１　学校教育目標

学ぶ喜び　　ふれあう喜び　　鍛える喜びを　　もつ子ども

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・学力の向上に取り組む学校	・居心地のよい学校づくりに取り組む学校	・体力向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・学ぶ喜びをもつ子	・ふれあう喜びをもつ子	・鍛える喜びをもつ子
○教師像	・授業改善を推進する教師	・児童の可能性を引き出す教師	・子供と共に汗を流す教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

１　学力の定着と主体的に問題を解決する力の育成

４月に実施した区の学力調査では目標を大きく上回り通過率国語 88.1%算数 92.3%を達成できた。２００文字程度の短作文と、令和元年度から実施している「桜☆学習ｺﾝﾃｽﾄ」をさらに充実させる。漢字や計算、ﾛｰﾏ字、２３区名、都道府県名等、努力すれば必ず理解できる内容の定着を図ることで、努力すれば結果が表れることを実感させる。

また、区の指導力向上中核校（理科）としての研究を通し、理科好きな児童が増えている。特に教師の指示が無くても主体的に問題解決する姿が見られ始めている。今後も観察・実験やものづくりを中心として、科学的に考える力の育成を図る。

２　体力の向上と健康な体の育成

コロナ禍での運動制限のため、思い切って体を動かすことができない状況が続いた。しかし、投力向上の取り組みなどが成果として現れ、全学年全種目のうち 61 項目 63.5%が都平均を超えた。今後は持久力や柔軟性の向上にも力を入れ、体育授業の改善を含め体力の向上を図っていく。

３　いじめがなく、毎日楽しく通える学校づくり

いじめはいつ、どこにでも発生するという意識を全教職員が共有するとともに、「いじめ防止対策委員会」において、毎月いじめに発展しそうな案件を洗い出し、学級担任等からの聞き取り対応を迅速に行っている。また、Web-QU の結果や各種ｱﾝｹｰﾄ調査の結果を生かしながら、いじめの早期対応を図ることで、継続するいじめの件数０を目指していく。

４　重点的な取組事項

	内　　容		実施期間（年度）　R:令和				
			R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ	学ぶ喜びをもつ子	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	ふれあう喜びをもつ子			○	○	○
3	健やかな体の育成	鍛える喜びをもつ子			○	○	○

５　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ　学ぶ喜びをもつ子

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
授業力の向上と基礎学力の定着率向上	令和５年度目標通過率 国語・算数共に 85.0 ２月到達度確認ﾃｽﾄ 国語 75.0　算数 75.0	自己評価の際に記		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新	朝のﾓｼﾞｭｰﾙ学習	全学年 国語	週４回 年50単位時間程度 始業前 15 分	新出漢字等の言語事項指導を行う 読み書きの練習やﾃｽﾄを継続して実施	桜☆学習ｺﾝﾃｽﾄ、漢字での満点者数	4･9･1 月のｺﾝﾃｽﾄで、最終合格者数 各 85%	自己評価の際に記入		
2 新	ﾀﾌﾞﾚｯﾄ活用	全学年 全教科	年間	AI ﾄﾞﾘﾙ、ｸﾗｽﾙｰﾑを活用した課題の提出・回収、ｽﾗｲﾄﾞ利用、ﾌｫｰﾑｱﾝｹｰﾄ等を活用し、個別最適な学びと協同的な学びを実現する	児童ｱﾝｹｰﾄ	学校の授業はわかるに肯定的評価 90%以上			
3 継	自学ﾉｰﾄ	2 年生以上 全教科	年間（2 年生は後期から）	家庭学習習の習慣化と興味ある学習等で自ら課題設定し追究する力の育成目指す 宿題とは別に自ら考えた課題で自学ﾉｰﾄに取り組む 模範となる自習ﾉｰﾄをﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化する	各学年の模範ﾉｰﾄをﾃﾞｼﾞﾀﾙ化 児童ｱﾝｹｰﾄ	1 月までに全学年 15 例以上を掲載 家で宿題以外の勉強をする児童 70%			
4 継	短作文	全学年 各教科領域	週１回	低学年100文字程度、高学年200文字程度の短作文を習慣化 ﾃｰﾏや書き出し読む対象等を工夫し、書く力を身に付けさせる	学級担任からの聞き取り	年間30回を目標に短作文に取り組む 各学級 80%達成			

5 継	桜☆学習ｺﾝﾃｽﾄ	全学年 算数 社会	長期休業前後	休業前に課題を提示 （漢字）・計算・ﾛｰﾏ字・23 区名・都道府県名の課題 長期休業明けに確認ﾃｽﾄ ｺﾝﾃｽﾄ期間内であれば何度でも再受験させる	全員満点となるよう、各回で３回以上実施	4･9･1 月のｺﾝﾃｽﾄで、最終合格者数 各 85％			
6 継	MIM-PM ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ	1 年 2 年 国語	年間	「MIM-PM→ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ指導→再ｱｾｽﾒﾝﾄ」のｻｲｸﾙを定着 ｻﾏｰｽｸｰﾙで 1 年のみ「MIM-PM→ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ指導」を実施 2 年で、年間 3 回以上 MIM ｱｾｽﾒﾝﾄを実施	MIM-PM の結果	①7 月までにｻｲｸﾙを全学級実施 ②12 月までに 3rd ｽﾃｰｼﾞを 15％未満 ③第２学年 7 月までに MIM ｱｾｽﾒﾝﾄを実施し 3rd ｽﾃｰｼﾞ児童には、ｻﾏｰｽｸｰﾙに参加			
7 継	体験活動を通して、主体的に問題解決する児童の育成	全学年 理科 生活科	年 6 回	体験を通して主体的に学ぶ自児童を育成するための研究授業の実施	校内研究を通して	①1 月までに 6 回以上の研究授業を実施し、区内へ公開 ②自分で不思議を発見し、なぞを解き明かそうとしていると回答する児童 70%			

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－２	豊かな心の育成　　ふれあう喜びをもつ子			
Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
・いじめ防止の徹底と早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめ根絶 ・体験的な学習や地域と触れ合う行事をとおして、地域に見守られ、安心して通える学校とする。	４か月以上継続するいじめの件数０ 児童ｱﾝｹｰﾄで「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定的評価 90%以上			

自己評価の際に記入

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

思いやりの心の育成	①保護者ｱﾝｹｰﾄで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定的評価 90% ②児童ｱﾝｹｰﾄで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定的評価 90%	・幼保小連携、小中連携の工夫（間接・直接交流） ・地域にかかわる体験活動や本物に触れる活動等を各学年５回以上実施。 ・QU や各種意識調査結果を分析し、児童に寄り添った指導を心掛ける ・たんぽぽ学級と通常の学級との交流活動を年間通して実施	自己評価の際に記入		
いじめの根絶	①いじめの疑いとして認知した件数 500 件以上 ②いじめとして把握した場合、児童と保護者の不安を年度内にすべて解消	・いじめｱﾝｹｰﾄで「相談できる人がいない」児童を全職員で共通理解（10 月） ・ｱﾝｹｰﾄ内容を管理職がすべて把握 ・いじめ防止研修会を年５回以上実施 ・毎月委員会を開催し担任等からﾋｱﾘﾝｸﾞ ・生活指導夕会を週１回実施			

重点的な取組事項－３	健やかな体の育成　　鍛える喜びをもつ子			
Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
「投げる力」を重点として、体力の向上を図る。また、柔軟性・持久力・瞬発力を高めるための取組を実施する。	「ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ投げ」の東京都Ｔｽｺｱを第３学年以上で 50 以上	自己評価の際に記入		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上	・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ投げ第３学年以上でＴｽｺｱ 50 以上 ・全学年男女全種目のうち 60%以上が都平均以上	・投げ方教室を実施 ・ﾃｨｰﾎﾞｰﾙを主運動とした取組の充実 ・なわ跳び、持久走に集中して取組む期間を設定	自己評価の際に記入		
教員の体育指導力向上	・年５回の体育実技研修会を実施する。	・2 領域以上で実技研修会 ・自主研修会で体育研修実施			

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

（２）保護者や地域へのメッセージ

（３）その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します